

氏名	浅田 早央莉
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6235 号
学位授与の日付	2020年9月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Indication and prognostic significance of programmed ventricular stimulation in asymptomatic patients with Brugada syndrome (無症候性ブルガダ症候群患者におけるプログラム心室刺激の適応と予後的意義)
論文審査委員	教授 成瀬恵治 教授 大月審一 准教授 小谷恭弘

学位論文内容の要旨

目的) 無症候性 Brugada 症候群(BrS)について、異常心電図マーカーに基づいたプログラム刺激(PVS)の適応と予後的意義を評価した。

方法) 対象は岡山大学で PVS を施行した無症候性 BrS125 名。異常心電図マーカーを QRS 棘波(fQRS)、Tpeak-Tend 間隔延長(Tpe \geq 100ms)とし、平均 132 ヶ月間追跡し、心室細動(VF)イベントを評価した。

結果) fQRS は 66 人で、Tpe \geq 100ms は 37 人で認められた。60 人で VF が誘発された。追跡期間中に、10 人が VF を発症し、fQRS、Tpe \geq 100ms、VF 誘発性は、いずれも VF イベントと関連を認めた。VF イベントは、異常心電図なしで 0%/年、非 VF 誘発で 0.1%/年で、fQRS と Tpe \geq 100ms を有し、VF が誘発される際には、4.4%/年(p<0.001)と将来の VF 発症と強く関連した。

結論) 無症候性 BrS のリスク評価に、fQRS、Tpe \geq 100ms に基づいた PVS が有用である。

論文審査結果の要旨

無症候性 Brugada 症候群(BrS)について、異常心電図マーカーに基づいたプログラム心室刺激(PVS)の適応と予後的意義を評価した。岡山大学病院にて PVS を施行した無症候性 BrS125 名を対象とし、異常心電図マーカーを QRS 棘波(fQRS)、Tpeak-Tend 間隔延長(Tpe \geq 100ms)と定義した。平均 132 ヶ月間追跡し、心室細動(VF)イベントを評価した。その結果、fQRS は 66 人で、Tpe \geq 100ms は 37 人で認められた。60 人で VF が誘発された。追跡期間中に、10 人が VF を発症し、fQRS、Tpe \geq 100ms、VF 誘発性は、いずれも VF イベントと関連を認めた。VF イベントは、異常心電図なしで 0%/年、非 VF 誘発で 0.1%/年で、fQRS と Tpe \geq 100ms を有し、VF が誘発される際には、4.4%/年(p<0.001)と将来の VF 発症と強く関連した。この結果から、無症候性 BrS のリスク評価に、fQRS、Tpe \geq 100ms に基づいた PVS が有用であることを示した価値ある業績である。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。